

Eureka XI

六年制通信 No.2 令和5年4月14日(金)号

正しく思考する

正確な表現ではないかもしれませんが、誰かが「やる気がないのに勉強してもダメだ。食欲がないのに無理に食べるようなものだから消化不良を起こすだけだ」と言っていました。なるほど、うまいことを言いますね。確かにやる気は大切です。そういえば、私たちの体にはどこかに「やる気スイッチ」があって、それをいつ押すかが成功のカギだなどとも言われていますね。しかし、これ、誰が押すのですかね。勝手に押されるのでしょうか。つまり、やる気が起きるまでひたすら待つのでしょうか。

この通信でも何度も取り上げていますが、心理学上の実験に「やる気(心)が先か行為が先か」という問題があって、結論としては自分の心は行為から作られることがあると、そういうことでした。やる気がなくても行為がやる気を引き起こすことがあるということです。ただし、最初の行為を正しく行わないといけません。行為から作られる心は良くも悪くも習慣になってしまいますから。何が怖いと言って、悪い習慣ほど怖いものはありません。人間は習慣の生き物であると言われるくらい、一度身についた習慣は容易に変えられないものです。良い習慣も悪い習慣もね。

ある行動を続けるとそれが習慣になり、その習慣はやがて自分の性格となる、そんなことをマザー・テレサが言っています。正確に書くと「思考に気をつけなさい、それはいつか言葉になるから。言葉に気をつけなさい、それはいつか行動になるから。行動に気をつけなさい、それはいつか習慣になるから。習慣に気をつけなさい、それはいつか性格になるから。性格に気をつけなさい、それはいつか運命になるから」です。思考から言葉、言葉から行動、行動から習慣、習慣から性格、性格から運命へと一直線につながっています。これを逆にたどれば、自らの運命を決定するのは思考である、だから思考には気をつけなければいけないという理屈になります。正しい思考をすること、これが一番大切だということです。英単語としては思考：thoughts、言葉：words、行動：deeds、習慣：habits、性格：character、運命：destinyです。ちなみに運命にはfateとdestinyがありますが、fateは避けられない運命で悲劇的な結末が予想され、destinyは素晴らしい結末を含意します。マザー・テレサはdestinyを使っています。

では正しく思考するとはどういうことか。これ、実はそんなに難しいことではないのですよ。自分が必要とされているところで全力をつくすにはどうするかを考えればいいのです。与えられた環境に感謝し、その持ち場持ち場で全力を尽くそうと考える、それが正しく思考するということです。やる気は後からついてきます。自分が必要とされている場所がわかりますか。簡単です。君が今いるところです。

三月末の学習合宿で受けた質問で、その場で答えられなかったのがありましたのでこの場を借りてお答えします。一つ目は「store と restore は綴りが似ているのに意味が全く違います。二つの単語は関連があるのでしょうか」でした。これは、あの場ではあると思いますと答えましたが帰ってから語源辞典を引いてみると、やはり store も restore も語源にラテン語の staurare (to repair) を持ちます。また、restaurant (レストラン) も同根です。二つ目は「the United States of America を合衆国と訳していますが、state は州なのだから合州国にはならないのですか」でした。これは読んだことがあって知っていたはずなのに、うろ覚えでしたからその時はちゃんと答えられませんでした。高島俊男の『お言葉ですが…』シリーズにあったはず。しかし、これ全十八巻。でも二冊目にありました。しかも、泣きそうになりましたが、赤線がいっぱい引いてあったのです。感心して読んだ証拠なのに、詳細を忘れていたわけですね。老化ですね。単行本 16 頁から 20 頁です。要するに、アメリカを合衆国と訳したのは幕府の役人だがステイツを衆と訳したわけではない。国の治め方として、大統領がいて民衆の代表が kongress (議会) に集まって色々決めていくという。そこで幕府の役人は周礼 (しゅうらい) という支那の古い書物を思い浮かべたわけ。この本は理想的な政府の機構をしるした経典で、この中に「大封之礼合衆也」という文がある。「国の境域を定める儀式の際は国人がみな集合する」という意味。なるほどアメリカのやり方は、まさしくこの合衆である。それでアメリカを合衆国と訳したとのこと。そもそも高島さんはステイトに州という訳語を当てるのがおかしいと言っています。その通りですね。さて詳細は高島さんの本を探して読んでごらんください。探してなかったら訪ねておいで。

今週のおすすめ

・丸谷才一 『思考のレッスン』 (文春文庫)

丸谷さんの本と言えば、本当は『完本 日本語のために』(新潮文庫) を読んでほしいところなのですが、これはむしろ先生方用、特に国語の先生に読んでほしい本だと思います。でも、背伸びをしたい生徒諸君は手に取ってみてください。読めると思います。

『思考のレッスン』は対談形式ですから、内容は難しいのですが読みやすく書かれています。言ってみれば、読書論の一環です。当然ながら日本語論も入ってくるわけですが、難しいながら耳を傾けたくくなります。それくらい説得力のある本です。

中で、私が面白いと思ったのは (というのは私も前々から気になっていたわけで)、最近では甘味喫茶の品書きに「白玉クリームあんみつ」だとか「氷クリームあんず」とか書いてある。昔だったら「白玉クリームあんみつ」には比喩的に「夏の月」という名前をつけたでしょう。そういう風流な態度がなくなって、ただ中に入っているものを羅列している。まったく奥ゆかしさがない。そう怒ってらっしゃいます。確かに、いろんなことが説明的になっているようですね、昨今は。言葉が裸で歩いていると言いますか。この本は言葉は優しいですが内容は簡単ではありません。しかし、昔なら高1でもトルストイの『人生論』くらいは読んでいましたからね、諸君も頑張ってください。

BGMは 優河の 灯火 でした…。